

一般社団法人日本CFO協会2023年度事業報告書

自2023年4月1日 至2024年3月31日

1. 事業報告

資本効率を重視した経営への期待が高まりCFO機能の重要性が問われていることに加え、持続可能性、社会課題の解決、環境や人権といった広範囲で多角的な視点を考慮した経営が求められる時代に入っており、CFOの役割もこれに伴いESGをはじめ人的資本といった非財務領域にも広がりつつあります。

先行き不透明な厳しさを増す経営環境の中で、より重要な役割を担うCFO機能の強化を支援させていただくべく、当期も会員の皆様の関心の高いテーマを取り上げ様々なサービスをご提供して参りました。

尚、当期はコロナ禍にて実施を延期した創業20周年記念活動を、23周年（20+3）として実施いたしました。具体的な活動内容は以下の通りです。

(1) 教育・啓蒙活動

- ・ 会員に対する情報提供の場として開催しているCFOセミナーを、オンラインにて16回開催しました。
- ・ FP&Aの普及啓蒙の観点から、8月より毎月FP&Aセミナーをオンラインにて開催を開始し当期は7回開催しました。

CFOセミナー、FP&Aセミナーの詳細はこちらをご参照ください。

https://www.cfo.jp/seminar/cfoseminar_archives/

- ・ 啓蒙活動の観点より会員の方以外にも対象を拡大し広くご案内を行ったイベントとして、当期も以下のイベントを開催しました。

[CFO X!!](#)（7月25日、26日、27日、28日）

「最高の経営を目指して」（オンライン開催）

[CFOフォーラム・ジャパン2023](#)（12月12日、13日、14日）

「CFOが挑む『最高の経営』」（オンライン開催）

[Corporate Executive Forum 2023](#)（12月20日）「最高の経営を目指して！」

（紀尾井カンファレンス《東京・千代田区》）

- ・ 23周年（20+3）記念活動として、7月27日（木）に帝国ホテル（東京・千代田区）にて特別記念レセプション「[CFO NIGHT!! 2023](#)」を開催しました。また、記念出版活動として、「[最高の経営を目指して](#)」を発行しました。
- ・ 次世代のCFOを担う方々を対象とした勉強会「[次世代CFO会議（Next CFO Society）](#)」もオンラインにて4回、集合形式で2回開催しました。

また、人事部門や法務部門を含めたコーポレート部門の方々を対象とした「次世代コーポレートエグゼクティブ会議2023」（9月1日、2日）を神奈川県小田原にて合宿形式で開催しました。

- ・ 法人会員を対象にFP&A機能の実装・強化に向けた取り組みを共有する「FP&A研究会」を2023年7月から2024年3月にかけて全8回（オンライン6回・集合形式2回）開催しました。
- ・ 寄付講座を以下の通り2講座開催しました。
多摩大学寄付講座 [「ベンチャーCFO講座」](#)
東京都立大学寄付講座 「経営学特別講義<事業リスクマネジメント>」
- ・ オンライン情報誌「[CFOFORUM](#)」を毎月発行しました。
- ・ 米国AFPのFP&A GUIDE 18本の翻訳を収録した「[FP&Aベストプラクティス大全](#)」を11月に発行しました。

（2） 資格・検定活動

- ・ 一般社団法人金融財政事情研究会と共同で実施しているプロフェッショナルCFO資格試験の受験者数は559人となり、受験者は累計4,805人になりました。
- ・ 経済産業省経理・財務人材育成事業経理・財務スキル検定（FASS検定）の受験者数は5,366人となり、受験者は累計84,510人になりました。
- ・ 専門性の高い実務領域のスキルを可視化するための連結決算実務検定の受験者は52人となり、受験者数は累計で545人になりました。
- ・ 経営企画スキル検定（FP&A）の受験者は304人となり、受験者数は累計で1,033人になりました。
- ・ 当期末時点における資格認定者数は、ジェネラルCFOが331人、グローバルCFOが214人、プロフェッショナルCFOが354人、スタンダードCFOが274人となり、CFO資格認定者は合計で1,173人となりました。

（3） 調査・研究活動

- ・ 経営・財務分野のさまざまなベンチマーク情報を提供する目的で「財務マネジメント・サーベイ」を以下のテーマにて3回実施しました。

「[経理部門のDX推進に向けた実態と課題2023](#)」

（調査期間：6月2日～ 6月23日）

「[企業会計基準委員会（ASBJ）公表『リースに関する会計基準（案）』に関するアンケート](#)」

（調査期間：8月10日～9月15日）

「[インボイス制度導入後の経費精算のデジタル対応と課題](#)」

（調査期間：1月15日～1月31日）

(4) 会員数

- ・ 個人会員の新規入会者数226人、法人会員の新規入会社数27社で、当期末の会員数は個人会員が1,927人、法人会員は248社となりました。

(5) 損益の状況

- ・ 売上高は、入会金収入6,050千円、会費収入72,114千円、受験料収入51,321千円が主な収入を占め、141,042千円となりました。
- ・ 費用は、広報活動費21,444千円、編集費15,803千円、試験実施費19,065千円、販売費および一般管理費54,469千円が主な費用を占め、161,181千円となりました。
- ・ 周年記念活動に伴う費用は、記念レセプション費用27,095千円、記念出版費用5,638千円と合計32,733円となりました。
- ・ 営業利益は▲20,138千円、当期純利益は▲20,145千円となりました。

2. 2024年度の活動

(1) 活動計画

急速な発展を見せる生成AIの活用などデジタル化をより高度化させていくと共に、不透明な将来予測を支援するための経営管理基盤の強化やFP&A機能の実装に向けたテーマをはじめ、資格認定、教育、調査研究、コミュニケーションそれぞれの事業分野において活動を行っていく予定です。

(2) 事業予算

2024年度は、入会金収入8,500千円、会費収入77,370千円、受験料収入63,350千円と、売上高は161,735千円を予定しています。費用は128,814千円を予定しており、税引前利益は32,921千円を予定しています。

以 上